

平成7年度 和歌山県名匠

おお まつ りゅう あり だ せい さく
【大松流有田かご製作】
ふる た たつ お
古田龍雄

【現住所】中津村(現:日高川町)

【生年】明治37年

業績及び経歴

明治37年日高郡中津村(現:日高川町)で生まれる。20歳の時に、有田郡金屋町(現:有田川町)の大松氏の籠に巡り合い、その魅力にみせられ、籠づくりを始め、今日まで、約70年間その製作に努めている。

氏の籠づくりは、大松氏のひとつの籠が師匠であり、竹の選定、ひごづくりから製作まで、すべて独学で始めている。

竹の選定は、一日中陽の当たらない赤土に育つ真竹で、節目が水平になるといわれる新月の夜に、一年分の竹を伐採する。また、ひごづくりは、愛用の短刀ひとつで、2ミリ程度の極細のひごに仕上げしており、長年の経験と勘が必要である。

特に、氏の製作した籠は、鮎など魚を傷つけないよう籠の内側部分が、底から数センチ上まで竹の表面にするなど工夫されており、籠づくりに対する情熱がうかがえる。

製作するなかで最も神経を使うところは、最終段階で籠の胴部分に、熱湯で曲げられた横骨を差し込んでいくところと籠の口の部分を薄く削った淡竹で巻き上げていく作業であり、籠のできの良否を左右し、熟練した技術が必要である。

現在、籠の製作は、年に数個と僅かであるが、この数少ない籠を日高川で、大公望たちの腰に見受けられる。